

社外取締役インタビュー

1 群馬銀行について

2 中期経営計画について

3 ESGへの取り組みについて



「地域社会の発展を常に考え行動すること、これが私たちの事業です」という企業理念がまさに試される時代に突入した。中期経営計画の「人材改革」にしっかり取り組むことが大切。「企業は人なり」という言葉を、変化の激しい時代にはより強く実感する。

取締役
近藤 潤

近藤取締役の略歴は役員一覧(49頁)をご参照ください。

Q1. 社外取締役としてのご自身の役割について、どのようにお考えでしょうか。

社外取締役の役割は取締役会において、外部の目・第三者の視点で議論に参加し経営の監督機能を担うことと考えています。

私は製造業出身であり金融関係に全く携わったことがなく、どのように役割を果たせるのか悩みましたが、どの業界でも経営の基本・留意すべきことは同じと考え、自分の経験をベースに発言するようにしています。

具体的には、どのような社内議論を経て提案されてきたのか、その提案内容は企業理念に照らしてどうか、また私は群馬県人で長年企業活動を群馬地区で取組んできたこともあり、ユーザー視点でどのように感じられるかなどを念頭に置いて取組んでいます。

また、監査役との意見交換会や執行役員の方々との面談などの機会に、当行の風土・体質、特に風通しは良いかなどもチェックするようにしています。

Q2. 群馬銀行の強み・弱みについて、どのようにお考えでしょうか。

当行の強みは、長年地域経済の中核として活動してきた実績により地域との間に生まれた強い信頼関係、しっかりとしたブランドがあること。

金融マーケットの中心である首都圏に近いという地の利があることも強みの一つだと思います。

また、地域を代表する企業であり群馬出身の優秀な行員が多く在籍していること、企業風土として、どのようなことに対しても真面目に取り組む姿勢は本当に素晴らしいと感じています。

弱みといえるか否かはわかりませんが、今後変化の激しくなることが予想される社会の中で危機感を持って遅く活動できる人材が育っているか、言われた事をそつなくこなす「優等生」の集団になっていないか検証してみることも大切かと思っています。

Q3. 今後、群馬銀行が最も力を注ぐべきものは何か、どのようにお考えでしょうか。

「地域社会の発展を常に考え行動すること、これが私たちの事業です」との企業理念がまさに試される時代に突入したと思います。

先行きは不透明ですが、まずは昨年より活動している中期経営計画「Innovation 新次元」目標を達成すること、SDG s宣言に基づき事業活動することが大切だと思います。

その為には、活動のベースとなる経営プラットフォームの転換を図る3つの改革、特に「人材改革」にしっかり取り組むことが大切ではないかと考えます。

「企業は人なり」とは昔から言い伝えられている言葉ではありますが変化の激しい時代にはより強く実感する言葉だと思います。

Q4. 今後のガバナンス強化への取組みについて、どのようにお考えでしょうか。

当行のガバナンス強化は、コーポレートガバナンス・コードや、取締役会の実効性評価アンケートの分析に基づいて着実に取組んでおり、ここ数年で大きく進歩していると評価できると思います。

2015年に初めて選任された独立社外取締役が、2020年には3名体制になり取締役9名の1/3を占めております。2018年からは独立社外取締役が参加する指名・報酬諮問委員会も設置され透明性が高められました。

社外役員には経験・属性の異なった方々が選任されており、女性役員も含めて多様性に富んだ構成になっていると思います。

体制は整備されてきましたので、我々社外役員がその役割をしっかり果たす段階になったと感じています。

